

【実践報告】

『トコトコのもり』プロジェクトのはじまり
—学生がリーダーとなるキャンパスあそび広場の試み—

The Beginning of "Tokotoko no Mori" Project the First Year:
An Effort of the Campus Playground Created by University Students

石山 みづ美¹⁾, 石田 淳也¹⁾, 今村 貴幸¹⁾, 三原 信彦¹⁾

ISHIYAMA Izumi, ISHIDA Junya, IMAMURA Takayuki, MIHARA Nobuyuki

¹⁾ 常葉大学保育学部

要旨

社会状況を展望した「グランドデザイン答申」(2018)では、高等教育がめざすべき姿として学習者本位の教育への転換が示されている。静岡草薙キャンパス誕生から5年を経た2023年度、保育学部生をリーダーとする子どものあそび広場『トコトコのもり』プロジェクトが始動した。短期大学部保育科生を含めて延べ322人がプロジェクトに参加し、近隣の保育施設7園から延べ208人の子どもたちが来場した。学修者が将来につながる成長を実感でき、学生参画型の大学づくりにも寄与するプロジェクトとして発展させるべく、これからも試行錯誤が続けられる。

キーワード：学生ボランティア、学修者本位、保育施設、社会貢献、遊びの広場

I はじめに

我が国の高等教育の将来像を示した中央教育審議会答申(2005)では、大学に期待される役割は変化しつつあり、現在においては、本来的な使命としている教育・研究と同時に、大学の社会貢献(地域社会・経済社会・国際社会等、広い意味での社会全体の発展への寄与)の重要性が強調されるようになってきており、こうした社会貢献の役割を、言わば大学の「第三の使命」としてとらえていくべき時代となっているものと考えられる、と述べられた。16年後、中央教育審議会大学分科会は、「これからの時代の地域における大学の在り方について—地方の活性化と地域の中核となる大学の実現—」(2021)において、地域における大学の役割の第一に、医療、福祉、教育といった地域にとって必要不可欠な分野に従事する者を育成する人材育成機関としての役割がある、と明示している。これらの告示から、地方の高等教育機関において保育者養成を担う本保育学部が、人材育成と社会貢献の役割を期待されていることは明らかである。

この間、中央教育審議会は、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」(2018)において、2040年を迎えるとき、どのような人材が社会を支え、社会を牽引することが望まれるのかを含め、高等教育の目指すべき姿を答申した。「学修者本位の教育への転換」を標題に示したこの答申では、(1) これからの人材に必要とされる資質や能力は、いわゆる一般教育・共通教育と専門教育の双方を通じて、

また、学生の自主的活動等も含む教育活動全体を通して育成されていくものであること、(2) 高等教育が学修者一人一人の可能性を最大限伸長することで未来を支える人材を育成する役割が期待されること、(3) 高等教育機関で学んでいる学修者には、後に続く学修者の学びも含めて高等教育が充実していくために、これから行われる高等教育改革に参画することが期待されていること、等が述べられている。今後の社会状況の変化に対応できる人材を育成する役割を果たすため、学修者が教育活動全体に参画する教育への転換、さらに将来の職業につながる成長を実感できる教育への転換が求められているといえる。

さて、静岡草薙キャンパスが2018年に誕生して以来、保育学部と短期大学部保育科の両学生が同キャンパスで保育を学ぶ環境となった。5年を経た今年度、保育学部では学生をリーダーとする子どものあそび広場『トコトコのもり』プロジェクトを始動させ、短期大学部保育科生を含めたボランティア活動として試行した。

近隣保育施設の子どもたちをキャンパスに招くこのプロジェクトは、遂行できる環境整備を大学および教員が担い、ボランティア募集に応募した学生により組織された実行委員会が実行の中核を担って、あそび広場を運営する協働の形態を採った。

先行研究ではこれまで、保育者養成施設が主催する保育学生参画による遊びの広場活動に関して、(1) 授業科目として位置付けられ、学修効果が目標として設定される活動（新山ら，2023；永山ら，2022；久米ら，2019）、(2) 学生ボランティアが保護者と子どもを対象とする子育て支援に参加する活動（児嶋ら，2022；山下ら，2022；瀬々倉，2019）、(3) 大学と自治体の連携による課題解決事業に学生が協働する活動（薮田，2023；栗原ひとみ・金子功一，2023；今野ら，2020）等が報告されている。2023年度始動の『トコトコのもり』はこれらの活動と比較して、(1) とは、授業ではなく課外活動であるという点で異なり、(2) とは、親子ではなく園児を対象とする点で異なり、(3) とは、大学主導ではなく学生主体という点で異なる。これまでにみられなかった「学修者本位」の活動であり、独自性・新規性があると考えられる。

本稿では、遊びの広場着想の始まりから計画の遂行まで、2023年度の活動を報告する。

倫理的配慮として、本稿に掲載されている団体名、氏名、写真、コメントのすべては、本稿の趣旨を説明し、掲載の許可を得たものである。

Ⅱ 『トコトコのもり』実現までの準備

1. 着想：大学敷地内に日常的に子どもがいる環境と、大学施設を子どもが使う環境づくり

トコトコのもりは、「大学敷地内に日常的に子どもがいる環境と、大学施設を子どもが使う環境づくり」の着想から始まった。実習や見学といった正式な学習活動ではなく、学生たちが日頃から子どもたちと同じ空間にいて、自然に触れ合うことができたなら、子どもへの理解と保育へのモチベーションがさらに増し、学修効果が高まることが予想される。また、造形技術や演奏技術を磨いている学生たちにとって、子どもたちに披露する機会があることが、継続への励ましになると推測される。常葉大学は附属幼稚園が二園あるものの、いずれもキャンパス敷地内ではなく、一園は約2.5km、一園は約5.5km離れた場所にある。このような現状から、附属園はもちろん、近隣の保育施設の子どもたちが気軽に大学構内に入

り、施設を利用できる環境を整備し、学生が日常的に子どもたちと触れ合える状態を作ること、保育を学ぶ学生の環境として望ましいものであると考えられた。

そこで、令和4年度常葉大学運営方針（重点事業等）に示された、特色ある学部教育をより一層推進するための活動計画策定の1項目と設定し、学部長・学科長・入試委員・高大連携委員の協議による発案を2022年7月に大学宛提出した。その後、この活動について具体的な計画案を求める回答があり、大学による応援を受けて、企画案（Table 1）の作成に発展していった。以降、学部教員と大学との協議が重ねられ、企画案の実現に至ったものである。

Table 1 トコトコのもり企画案（2022/12/09 作成）

企画名	大学敷地内に日常的に子どもがいる環境と、大学施設を子どもが使う環境づくり	
目的	常葉大学附属こども園および半径3km以内の保育機関の子どもと保育者が、気軽に大学構内に入り、施設を利用できる環境を整備し、学生が日常的に子どもたちと触れ合える状態を作る。	
概要	近隣の保育機関から遠足や散歩の目的地として来られる場所とする。駐車場，グラウンド，体育館，食堂，芝生などで遊んだり，お弁当を食べたりして，子どもたちが保育学部の学生たちと一緒に過ごせるようにする。月限定申込制の自由遊び空間として保育機関に広報する方法，演奏会などの催しに招待する方法の2案を企画している。	
予想される効果	実習や見学といった正式な学習活動ではなく，学生たちが日頃から子どもたちと同じ空間にいて，自然に触れ合うことができれば，子どもへの理解と保育へのモチベーションがさらに増し，学修効果が高まることが予想される。造形技術や演奏技術を磨いている学生たちにとって，子どもたちに披露する機会があることが，継続への励ましになると想像される。また，この環境を学外にPRすることにより，学生募集にもポジティブな影響があるものと推測される。園と子どもたちにも，大学構内で大学生と過ごすという，普段と異なる体験を提供することができる。	
企画のスケジュール	時期	内容
	3月	令和5年度の活動計画策定
	5月	遊び・催し会を担当するゼミナールの活動開始
	10月	一月限定の自由遊び空間活動
	11月	造形活動への招待会
	12月	演奏活動への招待会

2. 令和5年度保育学部事業『トコトコのもり』実施決定

2023年度に入って管理責任者、実施責任者および担当者の4人と、ワークショップ担当者2人が決定し、実行役の教員という人的環境が整った。学内関係部署により実施が認められ、4月に発出された実施要項（Fig. 1）に沿って、10月からの実行に向けた具体的な準備が開始された。

企画案では当初、対象保育施設を半径3km以内と設定していたが、施設数が予想以上に多数であることが判明し、半径約2kmにある保育施設と系列園に変更した。初年度の対象園は、(1) 常葉大学附属園：2園、(2) 近隣幼稚園：3園、(3) 近隣保育所：12施設、(4) 近隣認定こども園：6施設、計23施設とした。

「トコトコのもり」実施について		
<p>1. 対象の保育施設・児童福祉施設 次の園に通う児童（事前申込制） ※保育士・幼稚園教諭の有資格者の同行を必須とする。</p> <p>(1) 常葉大学付属こは幼稚園、常葉大学付属たちばな幼稚園 (2) 草薙キャンパスから半径2Km以内の保育施設・児童福祉施設</p> <p>2. 担当者 (管理責任者) 保育学部長 石山みづ美 教授 (実施責任者) 保育学部 三原信彦 教授 (担当者) 保育学部 石田淳也 助教 (担当者) 保育学部 今村貴幸 准教授 ※短期大学部学生の参加日程は、短期大学部教員も担当者として参加予定</p> <p>3. 内容</p>		
時期	内容	開催場所
10月平日 ①9:00～13:00 ②10:00～13:00	<p>「自由あそび空間」 担当者：三原・石田・今村・石山 (開催中は担当教員が1名常駐もしくは参加学生と連絡が確実にとれる体制を確保) 定員：各日約30名 内容：学生と児童で次のような活動をおこなう。 (例) 運動遊び、ゲーム遊び、昼食をともにとる等</p>	<p>(検討中) 駐車場 芝生コート クサナギアリーナ 学生食堂等</p>
11月22日	<p>「造形ワークショップ」 担当者：保育学部 三原信彦教授 定員：約20名 内容：楽しい手作りおもちゃ</p>	<p>①サクラコート ②子育て支援室 ③子育て支援室前庭 ④クサナギアリーナ ⑤B棟・C棟通路 ⑥多目的体育室</p>
12月20日	<p>「音楽ワークショップ」 担当者：保育学部 平野浩由講師 定員：約20名 内容：子どものための音楽会</p>	グラントーブル
<p>4. 経費 省略</p> <p>5. その他 (1) 保険 本学学生は、全学生が加入済の「学研災」「学研賠」で対応する。 保育施設等の参加者は、保育施設等で加入している保険で対応する。</p> <p>(2) 駐車場使用 送迎バス等、保育施設等から駐車場利用申請があった場合、申請手続きを経て利用できるものとする。</p> <p>(3) 大学職員への依頼業務 幼児教育支援センター、地域貢献センター等に適宜、協力依頼をする。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>		

Fig. 1 トコトコのもり実施要項 (2023/04/28 作成)



Fig. 2 常葉大学静岡草薙キャンパス サクラコート

(Source : 大学ホームページ バーチャル施設見学)



Fig. 3 常葉大学静岡草薙キャンパス 子育て支援室

(Source : 大学ホームページ バーチャル施設見学)

開催場所①のサクラコート (Fig. 2) は、広い人工芝の広場と桜の木々が連なる憩いの場として紹介されており、地域に開かれた交流スペースにもなっている。開催場所②の子育て支援室 (Fig. 3) は、地域の親子が訪れやすい位置に、室内でも芝生の庭でもゆったり遊べるよう設計されており、子ども用手洗い場とトイレが整備されている。

3. トコトコのもり実行委員募集と応募，実行委員会結成

5月から6月にかけて、学生ボランティアとしてのトコトコのもり実行委員募集を行なった。募集のお知らせと応募の際に記述されたことばを Table 2 に示す。応募者のことばからは、学修者本位の企画である主旨が理解されていることが推察される。この活動を経験することが将来の糧となるであろうという期待、さらに自らの成長を目指す意思が明瞭に表現されていた。応募学生から、教員側の期待を超える反応が寄せられたといえる。応募者8人から、リーダー1人とサブリーダー2人が選出され、トコトコのもり実行委員会が結成された。

Table 2 トコトコのもり実行委員募集のお知らせと応募のことば（2023/05/18-06/07 募集）

募集の お知らせ	新企画「トコトコのもり」とは？～子どもたちと遊びます。 10月に1か月間、近隣の園の子どもたちが大学にやってきて、一緒に楽しく遊びます。他には造形ワークショップや音楽ワークショップもやります。 子どもたちと保育学部生 みんなに楽しんでもらう、企画・運営をやってみませんか？ 3年生が主体となって実行委員会を結成します。
	募集の 主に企画するのは お知らせ A. 「自由あそび空間」～あそび場、ワークショップ、カラダを使った遊び、造形遊び、ゲーム～なんでも、10月開催、開催時期や回数なども計画 B. 11月に造形ワークショップ1回、12月に音楽ワークショップ1回やります。 楽しそうな企画を考えたり、これを実現するための必要なこと、計画・運営・準備・宣伝を和気あいあいとやりましょう。 三原（主担当）・石田・今村・石山がサポートします。質問もこちらまで。 氏名・番号、やりたいという意味をメールにて。
応募の ことば	○ 今回のトコトコのもりの実行委員について、保育士として子どもと関わる上で今回のイベントで何か糧になるものを身につけたいと思いました。また、将来自分の園を建てたいという夢があるため、その夢のために経験を積む良い機会だと考えたので実行委員として応募させていただきました。
	○ 私が実行委員をやりたい理由は、理想の保育者になるにあたって自分の力不足を感じたためです。2年生の時の冬の実習、今行われている実習指導の講話を通して、私の子どもを見る視点は狭いと感じました。今回の経験を通し、子どもや利用する保護者からの視点を身につけ、将来の糧にしていきたいと考えたため、応募させていただきました。 ○ 私が実行委員を希望する理由は、子ども達に沢山の「楽しい」を提供でき、子ども達と沢山の「楽しい」を共有できると感じたからです。ポータルサイトに「トコトコのもり」の概要を拝見した際、造形ワークショップだけでなく、体を使った遊びから音楽ワークショップまで様々な企画が予定されていて、とても楽しそうだと感じました。そのため、この企画にせっかく参加するのなら、ワークショップ当日だけでなく、実行委員として企画・運営を行い、子ども達に楽しい企画を提供する側にもなりたと思いました。また、サポートしてくださる先生方も、専門性のある先生や現場を知っている先生方ばかりで、実行委員の活動の中で学べることが沢山あると感じました。実行委員として活動していく中では、授業だけでは学べない貴重な経験が沢山あると思います。その中でも特に、「自分たちで作り上げた企画を子ども達が楽しんでもくれる」という経験は、自分の中の大きな学びと誇りになるはずで。そんな「楽しい」でいっぱい経験を、実行委員のメンバー達、子ども達と共有できたら素敵だと思っています。よろしく願います。 ○ 学生同士で協力し、遊び場や活動を企画・運営する機会は実習でも滅多にないため、その貴重な体験をすることを望み、参加を希望します。また、トコトコのもりを通じて、子どもとの関わりを多く経験したいことも希望する理由の一つです。

実行委員会の主な活動としては、月2回ほどのミーティングを行い、施設向けと学生向け募集システム、メールドメイン整備と連絡システム構築、広報用インスタグラム開設、これらの管理と実施会場の選定と安全対策からスムーズな動線計画、これらワークフローの整理と人員配備、催し内容の具体的実現のための準備を広範にわたり行っている。

4. 実行委員会による対象施設への案内と施設からの申し込み

複数回の実行委員会を経て、実施日時、実施内容、実施方法、会計等の係分担が決まり、対象施設への『トコトコのもり』案内文（Fig. 4）とチラシ（Fig. 5）が作成された。実行委員が施設を訪問、口頭および文書による説明とお誘いをするを基本として、各所への案内を実施した。

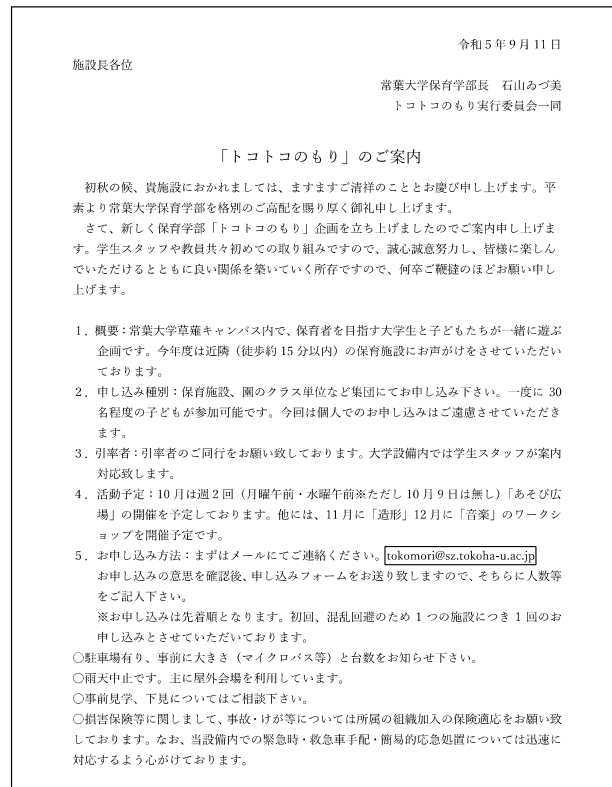


Fig. 4 トコトコのもり案内文



Fig. 5 トコトコのもりチラシ

施設からの申し込みが届くと、予約管理における外部との交渉担当の実行委員が対応し、施設担当者と調整しながら実施に向けての詳細計画を作成した。

Ⅱ 『トコトコのもり』の実現

1. 初回実施からワークショップ終了まで

2023年10月2日の初回から12月20日の最終回まで、計9回の延べ来場者人数、学生ボランティア人数、教員数、主な企画をTable 3に示した。208人の子どもたちと28人の引率者を『トコトコのもり』に迎えることができた。子どもたちと触れ合ったボランティア学生は、学部生164人、短大生158人、延べ322人であった。学生たちは子どもたちと楽しく過ごすためにアイデアを出し合い、毎回多彩な企画を準備して臨んでいた。

Table 3 トコトコのもり来場者、学生ボランティア、教員、小テーマのまとめ（単位：人）

No.	開催日	近隣 施設	系列園	子ど も	クラ ス	引率 者	学部 生	短大 生	学部 教員	短大 教員	小テーマ
1.	10月 2日 (月)		○	18	5歳児	3	11	40	3	2	的あてフリスビー、ミニサッカー、大きなボール
2.	11日 (水)		○	20	5歳児	3	7	11	3	1	ヨーヨー釣り、金魚すくい、輪投げ、的入れ、くつ飛ばし
3.	16日 (月)	○		23	5歳児	4	13	34	3	2	ボール遊び、ボーリング
4.	18日 (水)		○	27	5歳児	4	28	7	5	1	ワニワニパニック、トンネル、立体絵本、ジャンボシャボン玉、宝探し
5.	23日 (月)	○		33	4歳児	4	15	30	4	1	絵本読み聞かせ、わくぐり、ケンケンパ、校内探検
6.	25日 (水)	○		23	4歳児	2	31	7	5	1	宝さがし
7.	30日 (月)	○		15	5歳児	2	17	29	3	1	宝さがし、ハロウィンを楽しむゲーム、釣り 短大では、落ち葉のステンドグラス、校内探検
8.	11月 22日 (水)	○		19	3歳児 4歳児	3	27	0	2	0	造形ワークショップ、段ボールの迷路、じどう しゃ、大きな紙に絵を描く、場所屋外
9.	12月 20日 (水)		○	30	5歳児	3	15	0	3	0	音楽ワークショップ
計	9回	5施設	4園	208		28	164	158	31	9	



Fig. 6 トコトコのもり「自由あそび空間」ドキュメンテーション (制作：春山香菜恵)

そこでは保育課程での学び、実習等で培った経験を生かした様々な催しが行われ、ゼミナールでの参加では音楽、造形、体育、言葉等の各種専門領域それぞれの特色を打ち出していたが、参加スタッフ独自による創作あそびも熱の込められたものであった。具体的な小テーマを Table 3 に示した。「お祭り縁日」をテーマとした開催日があれば、ハロウィンが近い開催日ではこれをテーマとした装飾が施され、来場者に印象を残した。Fig. 6 は、10 月開催の「自由あそび空間」ドキュメンテーションである。

実行委員会は毎回実施後の振り返り会を行い、次回に向けた改善点を共有した。担当教員による助言を受け、回を重ねるごとに遊び広場の運営力を向上させていた。

2. 来場園園長の感想から広がる可能性

来場した A 幼稚園の園長から担当教員に届いた感想を以下に紹介する。

「A 幼稚園の園長です。先日は、常葉大学さんにお伺いさせていただきまして、ありがとうございました。トコトコのもり企画と同じタイミングで訪問を依頼でき、何かご縁を感じます。学生リーダー B さんの通っていた高校は A 幼稚園と交流がある高校で、挨拶をしてくれてその時のお話もできました。私は常葉大学さんへ行くのは初めてでしたので、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。園児たちも印象に残ったようで、いろいろと話が盛り上がっています。このようなご機会をいただけたことにただ感謝しかありません。近年、高校さんや大学さんとコラボして企画をすることも増えてきました。是非、常葉大学さんともコラボできたら幸いです。実習生もたくさん来てくださっているので交流できればと考えております。授業なども見学させていただきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします」

キャンパスに子どもたちと引率者を迎える『トコトコのもり』プロジェクトは、地域の保育施設への影響や、その施設での実習生への影響のみならず、地域の高校との関係にも影響がある活動であり、多様なステークホルダーとつながる可能性が潜在する活動であることが示唆された。

3. 実行委員会リーダー・サブラーダーが学長奨励賞を受賞

2023 年 10 月 30 日の之山忌において、実行委員会リーダーとサブラーダーが学長奨励賞を受賞した (Fig. 7)。推薦理由は、「『トコトコのもり』実行委員会リーダー・副リーダーとしてリーダーシップを発揮し、地域の子どもたちと常葉大学の学生とを結びつける活動を取りまとめ、常葉大学の地域貢献活動、子どもの教育活動に対して功績があった」であり、ボランティア活動、地域児童の育成に顕著な活動をした者として、活躍が大学に認められた。



Fig. 7 学長奨励賞を受賞した実行委員会正副リーダー（やまざき写真館提供）

4. 実行委員会リーダーによる中間コメント

学生リーダーによる中間まとめのうち、『トコトコのもり』の運営当事者となったことで得られた学び11項目を以下に掲載する。これらのコメントから、自らの可能性を大きく伸長させた体験であったことが推察される。

- ・企画から実践まで自分たちで動けるため、思い描いていることをやろうと思えばできる。
- ・様々な年齢の子どもたちと関わることができる。
- ・様々な園を観察できるため、園ごとの特色が見えてくる。
- ・自分たちで考え、準備した企画で子どもが楽しそうに活動している姿を間近で見ることができる。
- ・企画や準備などすべて自分たちでやるため、実習での部分実習や、保育士になってから役に立つ。
- ・保育現場で活躍する先生方から子どもへの対応の仕方や保育の考え方などアドバイスをもらえる。
- ・実際の保育者の動きを目の前で観察でき、それを自分に取り込みそのまま実践することができる。
- ・複数の遊びをするときの時間配分や回し方を学べる。
- ・他学年との交流がたかさんできるため、様々な保育観や遊びのアイデアを自分に取り込める。
- ・活動の中で子どもの遊びのレベルに合わせて臨機応変に遊びのレベルを変えることができる。
- ・短大保育科の学生とも協働することができる。

Ⅲ おわりに

『トコトコのもり』プロジェクトは端緒についたばかりであり、多様な可能性を秘めた活動であるといえる。社会貢献活動であると同時に「学修者本位」の教育活動であるこのプロジェクトについて、これから来年度の計画策定に向けて、参画した学生が何を学びとったかを明らかにする視座から考察を深めていきたい。

学修効果を検証するため、この活動を、(1) アクティブ・ラーニングのカテゴリーで捉える、(2) サービスラーニングのカテゴリーで捉える、(3) 保育実践のフィールドとして捉える、(4) 子ども観察のフィールドとして捉える、(5) ドキュメンテーション研究のフィールドとして捉える等の分析方法が考えられる。教員と学生が当事者として分析を行うことにより、今年度参画した学生が後に続く学修者の学びの充実にも関与できる環境をつくりたい。

学修者が将来につながる成長を実感でき、学生参画型の大学づくりにも寄与するプロジェクトとして発展させるべく、これからも試行錯誤が続けられる。

謝辞

短期大学部保育科学生をあそび広場への参加に導き、プロジェクトの運営に多大な貢献をいただきました遠藤知里教授、田村元延准教授に心より感謝いたします。トコトコのもり実行委員会初代リーダーの鈴木瑞保さん、副リーダーの鈴木輝さん、同じく副リーダーの春山香菜恵さん、会計・交渉担当の増井つかささんの尽力により、2023年度トコトコのもりプロジェクトを実現することができました。心よりお礼申し上げます。

引用・参考文献

- 中央教育審議会（2018）2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）（中教審第211号）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm（2023.12.12 情報取得）
- 中央教育審議会大学分科会（2021）「これからの時代の地域における大学の在り方について―地方の活性化と地域の中核となる大学の実現―」（審議まとめ）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360_00007.html（2023.12.12 情報取得）
- 中央教育審議会（2005）我が国の高等教育の将来像（答申）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101.htm（2023.12.12 情報取得）
- 今野聖士, 長谷川武史, 柳原高文, 傳馬淳一郎, 堀川真, 木下一雄, 宮内俊一, 棚橋裕子, 今野道裕（2020）
地元商店街をフィールドとした子どものあそび空間の創造：2019年度「商店街あそびの広場」事業報告.『地域と住民：コミュニティケア教育研究センター年報』（4）, pp.95-103.
- 児嶋輝美, 森万里子, 勢井香菜子（2022）「保育者養成校が行う子育て支援の取り組みについて―本学のペンギンクラブ子育て支援イベントの成果と課題―」『徳島文理大学研究紀要』103, pp.37-48.
- 久米裕紀子, 脇田栄, 池川正也, 宇留嶋美穂, 河合摂子, 遠藤晶（2019）「保育・教職実践演習の授業改善の試み―「にこにこタイム」の振り返り―」『学校教育センター年報』4, pp.69-76.
- 栗原ひとみ, 金子功一（2023）「大学生による地域連携の一事例 中高生の居場所カフェの運営を通して」『植草学園大学研究紀要』15, pp.33-43.
- 永山寛, 橋本真理子, 吉柳佳代子, 村上有希（2022）「自然体験・冒険あそび活動を通して得られる教育的効果とは～保育者を目指す学生のおおたにプレーパーク体験から～」『九州大谷研究紀要』48, pp.278-263.
- 新山順子, 京林由希子（2023）「保育者養成における子育て支援を実践的に学ぶ授業モデルの試行」『岡山県立大学教育研究紀要』7(1), pp.50-56.
- 瀬々倉玉奈（2019）「保育者養成課程における子ども・子育て支援の枠組：親子支援ひろば「ぴっばらんど」の実施準備」『京都女子大学教職支援センター研究紀要』1, pp.53-59.
- 山下世史佳, 松本希, 土田耕司, 六車美加, 柴川敏之, 鎌田雅史, 荻木まき子, 三好年江, 小谷彰吾・ズビャーギナ章子（2022）「保育学生による地域子育て支援の取り組み―2022年度活動報告―」『就実論叢』52, pp.133-145.
- 薮田弘美（2023）「学生, 行政等と協働した子育て, 子育てにおける社会関係資本に向けたアクションリサーチ」『美作大学・美作大学短期大学部地域生活科学研究所所報』20, pp.48-61.